

2026

5.13 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_Ob-B7-JSRHCB1Zp1PADA-w

【技術支援】九州大学 Q-AOS

白亜紀末の恐竜絶滅を引き起こした天体衝突の痕跡と生態系回復の軌跡



Key Words

天体衝突

イジェクタ堆積物

白亜紀 / 古第三紀境界

生物大量絶滅

強親鉄性元素

佐藤 峰南 助教

九州大学 理学研究院 地球惑星科学部門

鹿児島大学大学院で修士課程を修了後、九州大学大学院理学府に進学し、博士号を取得しました。専門は地質学・地球化学です。現在は、世界各地の堆積岩を対象とした野外調査や質量分析を通じて、過去の巨大天体衝突に伴う海洋・表層環境変動を解読する研究に取り組んでいます。これまでに、海洋研究開発機構 JSPS 特別研究員、千葉工業大学上席研究員、イタリア・パドヴァ大学研究員を経て、2022 年より九州大学理学研究院に着任しました。また、堆積物中から宇宙物質の流入履歴を復元する研究により、2015 年に日本学術振興会育志賞、2023 年に文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞しました。

約 6600 万年前、小惑星の衝突により、恐竜をはじめとする多くの生物が絶滅しました。化石記録からは、全体の 70% 以上の種が絶滅したことが明らかになっています。一方で、この壊滅的な出来事が、その後の新たな生命進化の契機となったことが、近年の研究から示されています。本セミナーでは、衝突によって飛び散った物質が堆積してできた地層「イジェクタ堆積物」に注目します。この堆積物に残された痕跡を解析することで、衝突の規模や環境変動、生態系への影響を明らかにする研究を紹介します。さらに、衝突後の生態系がどのように回復し、多様化していったのかについて、地質学・地球化学の視点から解説します。